

地域で支える子育て安心事業費／地域で子どもを育む場づくり支援事業

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	子育て推進部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策1 出会い・結婚・出産・子育ての希望の実現						
	目的	次代を担う子どもたちを育成する価値を社会全体で共有し、家庭、企業、地域などがそれぞれの立場で、出会い・結婚・出産・子育て支援の一翼を担う。						
	目標指標（R2）	①婚姻率（20～44歳） ②合計特殊出生率	①上昇 ②1.70					
	策定時の実績	①15.7(H27年) ②1.48(H27年)	現状	①15.1(H30年) ②1.48(H30年)	主要事業	家族や地域が支え合う子育て支援の展開		
事業名	地域で支える子育て安心事業費／地域で子どもを育む場づくり支援事業		担当課・担当	子育て支援課 少子化対策担当				
事業開始年度	平成27年度		事業終了(予定)年度					
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	家族で子育てを支える力の強化や地域全体で子育てを支える気運の醸成							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	孫育て交流サロンの創設支援							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：市町村やNPO法人等が自主的に行う取組みを支援するため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	地域で子どもを育む場づくり支援事業	4,768	3,650					
	計	4,768	3,650	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	4,768	3,650					
	計	4,768	3,650	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	孫育て交流サロン創設数	活動実績	ヶ所	6	5			
		当初見込み	ヶ所	6	10	9	-	-
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	合計特殊出生率	成果実績	-	1.45	1.48			
		目標値	-	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70
		達成度	%	85.29%	87.06%			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

- ・市町村に1ヶ所ずつ、地域の祖父母世代と子ども達との世代間交流の場である孫育て交流サロンを創設
- ・子育て負担感・不安感の払しょく、子育て応援の気運醸成により、合計特殊出生率を上昇

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	子育て負担感・不安感の払しょくするためには、祖父母世代の力を活かして地域全体で子育てを支える気運を醸成することは重要であり、優先度が高い事業であるとともに、県が実施すべき事業である。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	B	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	C	孫育て交流サロンの設置については、31年度末までに全市町村での設置を目標とし、30年度は10箇所を設置する目標設定をしたが、5箇所にとどまった(50%)。 補助対象事業の経費については、業務実施に必要な不可欠な費用に限定し、適切に支出した。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	孫育て交流サロンのハード整備に対して県が助成し、運営は市町村やNPO法人が行うなどの役割分担を行い、多世代間の交流を進めている。
今改善の課題等	補助金未活用の市町村について要因を整理し、全市町村へのサロン創設に取り組んでいく。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- ー: 該当しない